



財団法人 鳥取童謡・おもちゃ館 わらべ館  
平成18年度 ギャラリー—童夢企画展報告書 第2号

## ごあいさつ

わらべ館 館長 神戸直樹

平成18年度の「ギャラリー童夢企画展報告書 創刊号」発刊に引き続き、今年度も「ギャラリー童夢企画展報告書 第2号 万遊鏡」を刊行する運びとなりました。

「ギャラリー童夢企画展」は平成14年度から始まりました。毎年4回「わらべ館」に収蔵している資料の紹介や「おもちゃや遊び」に関する資料を収集・調査した成果等を「わらべ館」のおもちゃ担当の専門職員が工夫をして展示してきました。その1年間の企画展を記録したものがこの報告書です。

「わらべ館」は、今まで以上に「おもちゃと童謡・唱歌」をテーマとしたミュージアムとしての機能を強化し、「おもちゃと童謡・唱歌」の拠点施設として全国に情報発信を行う文化施設となるよう一層努力したいと考えております。そのための一つの方策がこの報告書の発刊です。今後、皆様のご感想・ご意見を参考にしながら、更に内容に工夫を加え、充実させていきたいと考えております。本書や企画展についての忌憚の無いご感想・ご意見や展示資料にまつわる思い出話やご質問等をお寄せいただければ幸いです。

なお、今年度から、皆様にこの報告書に親しみを持っていただくため、愛称を「万遊鏡」といたしましたことをご紹介させていただきます。

皆様に重ねて「わらべ館」への温かいご支援ご鞭撻をお願いし、「ギャラリー童夢企画展報告書 第2号 万遊鏡」刊行のご挨拶といたします。

平成19年3月吉日

## 目 次

### ごあいさつ

「一扇は胡蝶と戯れて一伝統遊戯 投扇興」	1
「ドイツと鳥取 おはなしの世界」	5
「昭和30年代のこどもたち」	9
「日本のいのしし」	13
わらべ館の今まで・ギャラリー童夢展示履歴	17

本書は、わらべ館3階の「ギャラリー童夢」という展示スペースで、年間4回開催される企画展の平成18年度分の報告である。展示の企画については、「投扇興」を平井貴調査・展示係専門員、その他を長嶺泉水（同）が担当し、吉田博道同係長、川崎香苗同係専門員、尾崎守同係職員が、解説の確認、展示の補助を行った。報告書の作成は、長嶺が担当、吉田、川崎、山本繭子同係職員が補足し、総括を神戸直樹館長が行った。

# 「扇は胡蝶と戯れて 伝統遊戯 投扇興」

期間：平成 18 年 3 月 16 日～6 月 20 日

## 【開催趣旨】

江戸時代の安永 2 年（1773）頃に誕生したとされる投扇興は、投壺を原型に誕生したといわれる遊びである。明治以降は近代化の波で下火になっていたが、近年、各流派や団体による資料の掘り起こしやルールづくりが進められ、それに基づくゲームが各地で行われるようになった。今回の展示にあたっては、其扇流の其扇庵匠胡さんご協力のもと、ホームページ「投扇興研究室（URL <http://www.tosenkyo.net/index.htm>）」を参考または引用させていただいた。

## 【展示資料一覧】

資料名（箱書）	年代	内容
紫式部 石山遊 投扇競	明治時代	扇 4 本、銘の一覧表、蝶、枕
投扇興	大正時代	扇 4 本、銘の一覧表、蝶、枕、投扇興の葉
投扇興	平成 17 年	扇 5 本、蝶、枕、得点絵図、「投扇興の葉」
投扇興	平成 17 年	同上

## 【投扇興の紹介】

### ◆投扇興の誕生

『投扇興図式』（泉花堂三蝶述、投扇庵好之編）によると、安永 2 年（1773）に京都の其扇という人物が夢見に導かれ投壺から発案した、とあるが、その経緯については、中国の故事「胡蝶の夢」からの後付けとも思われる。『続史愚抄』（柳原紀光）安永 3 年 6 月 19 日抄には、「於御前有投扇戯。（中略）頃日。此戯世間流行」とあって、後桃園天皇の御前で投扇興が行われ、その頃世間で流行していた様うかがい知れる。

投壺は遊び方が難しく格式を重んじる。それを下敷きにした投扇興の遊び方は、当時はルールが厳密でないためか、誰もが気安く楽しめ、この頃ちょっとしたブームとなっていたようである。

以下の記述は其扇流に則っている。

### ◆現代の道具とその名称

- ・扇… 8 本の骨、総丈（親骨の長さ）257±3mm、重さ 20g 以内
- ・蝶（的）…イチョウの葉に似た布張りに脚が付き、葉の両脇には糸で鈴がぶら下がる。葉の両端の長さ 9 cm、蝶の高さ 9 cm。
- ・枕…高 17.8cm×幅 9 cm×奥行 9 cm の直方体の下に、10cm×10cm の台座。



（図 1-1）投扇興の道具  
（左上から蝶、枕、扇）

#### ◆人員と役割

- ・ 投者（競技者）2名
- ・ 行司 1名…競技の進行役、銘定役。
- ・ 字扇取役 1名…字とは蝶のこと。乱れた蝶や枕を整え、扇を回収。投者の所作確認。
- ・ 記録取役 1名…行司の銘定を点数化、最後に総得点を発表する。

#### ◆遊び方

蝶の載った枕を挟んで約 1.6mの距離にそれぞれ座布団を敷き、投者はそこへ正座する。行事の指示でそれぞれがさいころを投げ、先攻（目数大）後攻を決定。「はじめませい」の行司の一声で交互に扇を投げる。1投ごとに行司が銘定したら記録取役が点数をつけ、字扇取役が蝶や枕を整える。全10投の内、5投ずつで席を入れ替わり、合計得点を競う。



（図1-2）扇の持ち方

#### ◆作法

- ・ 正座の腰を浮かせてはいけない（図1-4）
- ・ 座布団からひざがはみ出してはいけない（図1-5）
- ・ 座布団の位置を勝手にずらさない



（図1-4）腰を浮かせない



（図1-5）膝をはみ出さない



（図1-3）構え



（図1-6）鈴虫

#### ◆銘定について

源氏物語 54帖になぞらえた「浮舟」や「夕顔」などの銘が点数化され、当初は19、現在は40の銘で競技を進行している。たとえば「鈴虫」（図1-6）は、扇の骨からのぞく蝶が、竹の虫かごにいる鈴虫を連想させ、扇や蝶の状態と名称がうまく関連付けられている。なお、減点になる銘も設けられている。



展示室

## 【関連イベント】

### ◆「投げてみま扇か？～投扇興体験会～」◆

期日：平成18年3月18日（土）午後2時～3時

場所：わらべ館1階企画展示室

投扇興の歴史を簡単に説明した後、其扇流のルールに則り、対戦者は台座を中心にして1.6mの距離で対面し、それぞれが蝶に向けて扇を投げ合った。参加者はまったくの初心者かつ幼年者が多かったため、なかなかその距離で蝶に当てるのが難しく、距離を短くするなどして競技を楽しめるよう工夫した。

### ◆「投扇興にチャレンジ」◆

期日：平成19年1月2日・3日（火・水）午前10時～11時

場所：わらべ館1階企画展示室

当館で不定期に開催される「手作りイベント」のうち、正月気分を演出する日本の遊びを体験するイベントとして開催した。幼年者が多かったので、対戦型にせず、一人5投ずつ蝶に当てられるよう1m弱まで座布団を近づけて、まず扇を飛ばすことを目的とした。扇を片手で構えるだけでも、幼年者には難しかったが、今までにない体験をしたことについては興味を持ってもらえたようである。小学校高学年にもなると、何投かは当てられるようになっていた。

(参考文献)

「投扇興」あるいは「投げ扇」と呼ばれる遊びについて」高橋浩徳（『遊戯史研究』第17号  
2005年11月20日 遊戯史研究編集部）

## 【資料写真】



点数表（明治時代、部分）



箱蓋（明治時代）



箱蓋（大正時代）  
子どもが遊ぶ絵



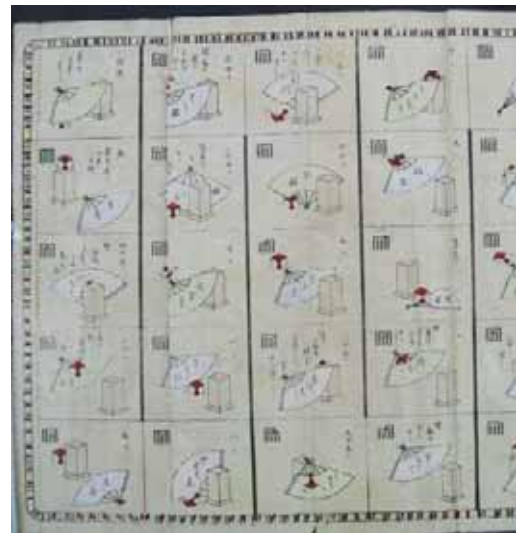
大正時代の枕の台座内部の部分  
「Throwing Game」と英語表記



点数表の挿画、少女が遊ぶ（大正時代）



添付された点数表の表書き  
「松園女史」とは上村松園か  
（大正時代）



点数表（部分）、源氏香で提示  
（大正時代）



添付の「投扇興  
（あふぎおとし）」  
（大正時代）

## 「ドイツと鳥取－おはなしの世界－」

期間：平成 18 年 6 月 22 日～9 月 19 日

### 【開催趣旨】

わらべ館は、開館時にドイツのハーナウ市にあるヘッセン人形博物館と姉妹館協定を結び、2005 年に 10 周年を迎えた。また、2006 年には、鳥取市とハーナウ市が姉妹都市 5 周年となり、日独交流の架け橋がより確かなものになっている。今展は、そうした背景とともに、ウィルヘルム・グリム生誕 220 周年の節目を捉え、グリム童話や「佐治谷話」など、両国の童話や民話に登場する人形やおもちゃたちを、物語の生まれた環境などと併せて紹介した。

### 【展示資料一覧】

資料名	分類	登場する「話」	製作
ハーメルンの笛吹き男	錫細工	ハーメルンの笛吹き男	バベットシュバイツァー社(独)
ヘンゼルとグレーテル	錫細工	ヘンゼルとグレーテル(グリム)	バベットシュバイツァー社(独)
赤頭巾ちゃん	錫細工	赤頭巾ちゃん(グリム)	バベットシュバイツァー社(独)
白雪姫	木工	白雪姫(グリム)	オストハイマー社(独)
赤頭巾ちゃん	木工	赤頭巾ちゃん	オストハイマー社(独)
胡桃割り人形(軍人)	木工	胡桃割り人形(ホフマン)	ヌスクナッケルハウス社(独)
胡桃割り人形(王侯)	木工		ヌスクナッケルハウス社(独)
胡桃割り人形(官憲)	木工		ヌスクナッケルハウス社(独)
指人形(王様)	木工		メーカー不明(独)
指人形(お姫様)	木工		メーカー不明(独)
指人形(狼)	木工		メーカー不明(独)
指人形(猫)	木工	長靴を履いた猫(グリム)	メーカー不明(独)
指人形(赤頭巾少女)	木工	赤頭巾ちゃん	メーカー不明(独)
指人形(王様)	木工		ヘルウィック社(独)
指人形(お姫様)	木工		ヘルウィック社(独)
指人形(カスパー)	木工		ヘルウィック社(独)
指人形の舞台(壁掛け)	布		メーカー不明(独)
星の銀貨 人形	磁器人形	星の銀貨(グリム)	エディタ・ヘルムス(独)
経蔵坊	鳥取張子	経蔵坊	柳屋 田中謹二・宮子(鳥取市)
おとん女郎狐	鳥取張子	おとん女郎	柳屋 田中謹二・宮子
しよろしよろ狐	鳥取張子	しよろしよろ狐	柳屋 田中謹二・宮子
恩志の狐	鳥取張子	恩志の狐	柳屋 田中謹二・宮子
尾なし狐	鳥取張子	尾なし狐	柳屋 田中謹二・宮子
湖山長者	北条土人形	湖山長者	加藤廉兵衛(北栄町)
経蔵坊	北条土人形	経蔵坊	加藤廉兵衛
しよろしよろ狐	北条土人形	しよろしよろ狐	加藤廉兵衛
佐治谷噺	北条土人形	佐治谷噺	加藤廉兵衛

### 【展示資料ピックアップ】

#### ◆錫細工(バベットシュバイツァー社)「ヘンゼルとグレーテルのお菓子の家」

この錫製造細工は、ドイツでは、主にニュルンベックやフュルトで作られているが、古くは金属の食器生産者が陶磁食器の台頭に押されたため、おもちゃ作りに活路を見出した成果である。18 世紀に発展して以降、規格や技術は伝承され、(図 2-1)の「お菓子の家」を例にとると、

わずか 1mm 強の厚さに、表裏の図案がそれぞれ鮮やかに塗り分けられ、どちら側から見ても楽しめる作品となっている。

◆木のおもちゃ（オストハイマー社）「赤頭巾ちゃん」

ドイツのおもちゃといえば、色鮮やかな木工細工がその代表格。



(図2-2)「赤頭巾」

豊富な森林資源を背景に、素朴な造作、あるいは精巧な技術が余すところなく活かされている。この「赤頭巾ちゃん」セットでも、丁寧に面取りされ、子どもが舐めても安心な植物性の塗料が用いられている。安全性を重視する姿勢は、この会社に限らず、ドイツのおもちゃの特長として定着している。



(図2-1) 錫細工「お菓子の家」表(上)と裏

◆胡桃割り人形 モデル選定の背景

今では胡桃を割る本来の目的は薄れ、飾られる人形の側面が強いが、王侯貴族、官憲、軍人などがモデルになることが多い。その理由としては、硬い胡桃を口でがりがりと噛み砕かせることが、権力者側へのあてつけとなっているから、という説がある。



(図2-3) 左から王様、軍服①、軍服②

◆「星の銀貨」

ハーナウ市在住の人形作家による、限定 15 体の内のひとつ。毎年続けているヘッセン人形博物館との人形交流により、平成 18 年 5 月に贈られた。

グリム童話「星の銀貨」のあらすじは、貧しくも心の美しい少女が、身につけている物を次々と分け与え、とうとう身ひとつになるかと思われたとき、天上から星降る銀貨とドレスに恵まれる、というもの。この人形の姿は、物語のクライマックスの場面(図2-4)。



(図2-4) 「星の銀貨」

◆鳥取県の民話に登場する狐の郷土玩具

○「柳屋」(鳥取市 田中謹二・宮子夫妻) 鳥取張子

「因幡五狐」とも言われる五つの民話は、古来の狐と人とのかかわりあいを今に伝えるもので、それを伝統の鳥取張子で表現した。首や提灯などは糸で吊る仕掛けになっており、かすかな動きが愛らしい(図2-5)。紙や木、布でできた鳥取の郷土玩具は、柳屋の先代、達之助氏の復元・創作によるところが大きい。

○「北条土人形(れんべい人形)」(北栄町 加藤廉兵衛氏)



現在 91 歳、北栄町在住の加藤氏は、旧満州（現中国東北部）から引き揚げた後、1950 年頃から製作を始めた。かつては地元の川沿いの粘土を用いていたが、護岸工事後の今は購入に頼る。すべて高さ 10cm に満たない掌に載る土人形である。

「湖山長者」は鳥取を代表する昔話。陽のあるうちに田植えを終わらせたい長者が、日暮れを遅らせるという傍若無人な振舞いの報いで、すべての田畑が湖（今の湖山池）に一変する物語だが、廉兵衛氏の手になる湖山長者は、とぼけた表情が笑いを誘う（図 2-6）。



(図 2-5) 経蔵坊



(図 2-6)  
湖山長者

#### 【民話・メルヘンの力】（解説パネルより）

##### ◆『グリム童話集』の成立背景～ドイツ・ロマン派～

グリム兄弟が国内各地の昔話を収集、編纂するまでの背景には、ドイツ・ロマン派の動きが大きく関わっている。当時、ドイツはフランス・ナポレオンによる占領が終わって小国分立の時代へ移行しつつあり、人々は「ドイツらしさ」を希求していた。そうした気運の高まりは、芸術活動「ロマン派」を生み、幻想的、神秘的な内容の作品を生みだした。ホフマンは『くるみ割り人形とねずみの王様』の中で、子どものおもちゃが縦横無尽に動き出す様を夢幻に描き出した。

こうした先行するロマン派の詩人らに影響を受けたグリム兄弟は、ドイツ文化の本質を探るべく、昔話の収集を開始、『グリム童話集』（正式名称『子どもと家庭の童話』）に結実した。

##### ◆グリム兄弟の歩みと昔話

兄ヤーコプ・グリム（1785～1863）と弟ウィルヘルム・グリム（1786～1859）は、研究から生活に至るまで生涯のほとんどを共に歩んだ。兄弟は言語学の研究と共に昔話の収集と刊行に着手し、出版された『グリム童話集』は、初等教育に適した教材として各地に広まった。内容の改訂には、主として弟のウィルヘルムが担い、子ども向けという当時の事情を考慮してか、きわどい内容やどぎつい表現を徐々に消していった。

今日、昔話研究が世界規模で進み、『グリム童話集』内のモチーフが各地で確認され、そのネットワークが注目されている。後述のイベントでも、それを提示する内容となった。

##### ◆鳥取は民話の宝庫～聞き取りと保存の重要性～

昔話の研究者によると、鳥取は「昔話の宝庫」と言われるほど、題材が豊富だという。それには語り部の存在と聞き取り調査や活字化など研究者の活動が不可欠。今後も伝承芸能の一つとして昔話の変容する様を記録しておくことが、豊かな言語文化を後世に残すために必要とされる。

#### （参考文献）

『グリム童話のふるさと』（小澤俊夫・石川春江・南川三治郎著 1986年 新潮社）

『ドイツ＝もちゃの国の物語』（川西芙沙著・一志敦子画 1996年 東京書籍）

【関連イベント】

◆「うたとおはなしの会」◆

期日：平成18年9月2日（土）午後3時～4時

場所：わらべ館「大正の部屋」

わらべ館は、「故郷」（岡野貞一）「金太郎」（田村虎蔵）など作曲家の出身地に立ち、童謡・唱歌の研究展示施設の機能も持つ。同時期に開催されていた「唱歌になったドイツの歌展」と連動して、ドイツと日本とを結びつける歌と昔話を体験するイベントとなった。

◆プログラム

・第一部 うたのひととき

（当館唱歌教師 原田彰氏、当館専門員 川崎香苗）

ドイツ語の歌が日本で変容した様を解説と歌唱で例示し、ドイツ語の歌を参加者で歌った。

Haenschen klein（小さなハンスくん）（独）

→ちょうちょ（日）

狐め、おまえはガチョウを盗んだな（独）

→こぎつね（日）

・第二部 おはなしのひととき

昔話のモチーフが世界各地に現れる現象を紹介し、人形劇や語り部による実演を楽しむ。

〈ペープサート〉（醇風小はあとふる委員5・6年生）

◇「ブレーメンの音楽隊」

ペープサートとは、絵を描いた紙に棒を付けて、登場人物を操る人形劇。今回は出演する小学生が自ら作成した。

○話のモチーフ…弱者の集合体が強者を懲らしめる。「猿蟹合戦」との類似。

〈語り〉（鳥取の民話語り部 中嶋須美子氏）

○お話のあらすじとモチーフ

「灰坊」…元長者の青年が身元を隠して奉公した先で、娘に見初められて結婚し、長者となる。「灰かぶり」（シンデレラ）との類似。

「三枚のお札」…小僧が山姥から逃れる際に、3回まじないをかける。昔話に現れる「3」の世界的な共通性。



ドイツ語の歌を楽しみ…



人形劇で笑い…



昔話に聞き入る

## 「昭和 30 年代の子どもたち」

期間：平成 18 年 9 月 21 日～12 月 19 日

### 【開催趣旨】

昨今のレトロブームのひとつに、昭和 30 年代（1955～65）の生活文化に光が当てられている。映画「ALWAYS 三丁目の夕日」の大ヒットなど、社会現象にまでなった昭和 30 年代、子どもたちはどんなおもちゃや遊びを楽しんでいたのか。当館収蔵品の中から代表的なおもちゃを展示し、遊びにまつわる社会背景を補足した。

### 【展示資料一覧】

資料名	素材	資料名	素材
オート三輪車	ブリキ	キューピー人形	セルロイド
子ども自動車	鉄・ビニール・布	キッチンセット	プラスチック
角メンコ	茶ボール紙	グラスセット	プラスチック
飛行機型ロウメンコ	ボール紙	お面「七色仮面」	セルロイド
メンコ	コートボール紙	お面「鉄人 28 号」	セルロイド
百連発銃	ブリキ	お面「まぼろし探偵」	セルロイド
巻き玉	紙・薬剤	文化人形	布
日光カメラ	紙・アクリル	カール人形	ソフトビニール・布
日光カメラ	紙・ガラス	着せ替え	紙
種紙（日光写真用）	紙	ぬりえ	紙
おはじき	プラスチック	ダッコちゃん	ソフトビニール
竹ひご模型飛行機	竹・紙・プラスチック	キャラメル空き箱	紙
ニューム管	アルミニウム	漫画「丹下左膳」	原作：手塚治虫 集英社
動力ゴム			
接着剤			

### 【展示資料ピックアップ】

#### ◆オート三輪車

この時代を象徴する自動車。この展示資料のモデルは「となりのトトロ」や「三丁目の夕日」にも登場するダイハツのミゼット MP 型か（図 3-1）。



（図 3-1）オート三輪車

#### ◆百連発銃

戦時中に製造を禁じられたブリキ製おもちゃだが、戦後、紙火薬の製造が許可されると、銃とともに単発の「平玉」や連発の「巻き玉」が普及した。これを装填して引き金を引けば発射音が響き、火薬臭が立ち込め、誰もが西部劇や冒険活劇のヒーローになれた。ちなみに、本資料を見た 50 歳台のドイツ人男性が「自分も当時そんな遊びをしていたよ」と語るように、東西ヒーローごっこの必須アイテムと言ってもいいようだ（図 3-2）。



（図 3-2）ブリキの銃と巻き玉

#### ◆ゴム動力模型飛行機

これの醍醐味は、自分の工作技術を試し、向上させられることと、その結果、飛行距離の延長という目に見える達成感が得られることだろう。これは子どもに限らず、大人も夢中にさせるもので、週末ともなれば、鳥取砂丘を舞台に競技会が繰り広げられていた。



(図3-3) 昭和30年代の教科書(図画美術・工作)

模型飛行機づくりは、戦前・戦中は国威発揚を担い、学校の教材に採用されたが、戦後には一転して採用取り消しの憂き目を見た。その後メーカー側の努力によって、再び図工や美術の教材として活用されるようになった(図3-3)。工作に適した接着剤の普及とともにブームが訪れた一品(図3-4)。



(図3-4) 模型飛行機「新鳥取号」

#### ◆メンコ

メンコはこの時代に限った遊びではないが、この頃コートボール紙の普及とともに、印刷技術や形状加工が発展した(図3-5)。鳥取では「ゲンジイ」あるいは「ペッチン」などと呼ばれ、「ゲンジイ」の由来は、絵柄に源氏の武者絵が多かった頃普及したためとされている。



(図3-5) 飛行機型メンコ

#### ◆カール人形

バービーやリカちゃん人形など着せ替え人形への橋渡し役。ソフトビニールがおもちゃの素材として多用されはじめ、髪の毛も化繊でできており、スタイリングを楽しむための小道具(ヘアカーラー、くし)がセットになっている(図3-6)。



(図3-6) カール人形

【昭和30年代のおもちゃ事情】(解説パネルより)

#### ◆手が入る喜び

プラモデルなどは、作る工程を楽しむ側面が大きく、手先が器用な子の独壇場となった。また、形あるモノだけでなく、状況に合わせたルール作りも遊びから生まれる適応力が試され、異年齢の集団では、ルールの柔軟性が求められた。

#### ◆新素材の登場

国内のおもちゃ業界は、戦後、セルロイド製おもちゃの輸出で巻き返しを図っていたが、引火しやすい性質が災いしてアメリカへの輸出がストップしてしまった。

そこへ塩化ビニール、ポリプロピレンなど合成樹脂が登場し、おもちゃの大量生産や加工の簡便性を後押しし



(図3-7) セルロイドのキュービー



(図3-8) グラスセット

た。(図3-8)のグラスセットは、ガラスのような透明さと扱いやすさを併せ持つ、プラスチックの利点を生かしたおもちゃである。

#### ◆女の子のお洒落

戦後の物不足が解消し、女性もお洒落に関心が向くようになると、大人の真似事に長けた女の子も人形を着飾り、駄菓子屋で売られるプラスチック製のアクセサリーやおもちゃの腕時計を身に着けてお洒落を楽しんだ。

#### ◆鳥取における模型飛行機

A級（初心者～）B級（中級～）の難易度やライトプレーン、角胴機などの形状に応じて、世代を問わずに作られた。当館収蔵資料の中には、車輪やプロペラに桐などの軽い木材が使われているものもあるが、この頃からプラスチックに取って代わられた。

競技会運営や趣味の集まりといった組織化もなされ、「新鳥取号」の外袋には、「鳥取県模型飛行機普及会」の文字が見られる（図3-9、全容は図3-4）。鳥取市内で当時から模型店を営む「ハセ科学模型」の長谷美喜雄氏によると、この団体は、戦時中本物のグライダー飛行に携わっていた人々で構成されていたようだが、残念ながら、今回当時の会員を突きとめるまでには至らず、今後の情報提供等に期したい。現在も愛好家の集まりによる競技会や模擬飛行が砂丘で行われている。



(図3-9) 外袋 (部分)

#### 【関連イベント】

##### ◆「おもしろ着せ替え」◆

期間：平成18年9月21日（木）～12月19日（火）の土曜日、午後1時30分～4時

場所：わらべ館3階おもちゃの部屋

当時も今も女の子が夢中になる遊びの一つに「着せ替えごっこ」がある。それは、厚紙に描か

れた軽装のひとがたを切り抜いて、同じく厚紙で折り代の付いた色々な衣装を当てはめては、「今日はお呼ばれなの」などと演出するままごとにも似た遊びである。

今回の「着せ替え」は、おもちゃづくりから始まった。まず、いろんな服を着た女の子のイラストをパソコン上で一枚ずつ作成しA4の厚紙に出力、服の内側部分だけを切り抜いた後、ラミネートに加工したシートを発泡スチロール製のパネルに上部だけ固定する（図3-10）。



(図3-10) おもしろ着せ替え手順  
ハギレの組み合わせを楽しむ

このように、素材の色や柄の組み合わせを楽しむ遊び方としては、年齢層では大体小学生以上が理解していた。組み合わせが完成したら、そのシートを他の子がリクエストするまで壁面に展示することで、自身の作品として愛着が芽生えていたようだ。

この「着せ替え」で遊ぶ様子は、かつての着せ替えごっこのようにドラマ作りをしない、一人遊びとして楽しむものだったが、布の貸し借りにおける気遣いや作品に個性を出そうとする自意識を感じ取れた。



展示室



おもしろ着せ替え



昭和30年代の旧県立図書館（県立図書館蔵）  
（わらべ館はこの建物を復元）



昭和30年代の若桜街道（県立公文書館蔵）

## 「日本のいのしし」

期間：平成 18 年 12 月 21 日～平成 19 年 3 月 21 日

### 【開催趣旨】

毎年好評の干支の郷土玩具展。今回は、平成 19 年の干支「いのしし」をモデルにした 26 都府県 66 点の郷土玩具が並んだ。近年は人の生活圏を荒らす厄介者の印象が強いのししだが、人との結びつきは深く、古くは霊獣ともされ、郷土玩具の中にも信仰心を表した「亥乗り天神」や「亥乗り大黒」などがある。今展示では、郷土玩具に見る素朴な表情と、知られざるいのししの生態など一部を紹介した。

### 【展示資料一覧】（日本列島のほぼ北から南へ）

資料名	総称	産地	資料名	総称	産地
猪乗り金時笛	<small>したかわら</small> 下川原土人形	青森県	親子背乗り猪	小幡土人形	滋賀県
猪乗り天神	<small>ろくはら</small> 六原張子	岩手県	草原走り猪	小幡土人形	滋賀県
干支土鈴亥	中山土人形	秋田県	大黒乗り猪	小幡土人形	滋賀県
干支猪	笹野彫	山形県	走り猪	小幡土人形	滋賀県
猪子供相撲	相良土人形	山形県	猪（小）	伏見土人形	京都府
亥乗り天神	<small>なかゆがわ</small> 中湯川土人形	福島県	狐乗り猪	伏見土人形	京都府
福良雀乗り猪	中湯川土人形	福島県	猪	伏見土人形	京都府
小槌乗り猪	中湯川土人形	福島県	起上り猪	大阪張子	大阪府
豆亥乗り小法師	中湯川土人形	福島県	桃亥	吉備津土人形	岡山県
来らんしょ亥（青）	中湯川土人形	福島県	亥土鈴	吉備津土人形	岡山県
来らんしょ亥（赤）	中湯川土人形	福島県	猪（オス）	<small>こうせん</small> 香泉土人形	高知県
鯨乗り豆亥	中湯川土人形	福島県	猪（メス）	香泉土人形	高知県
仁田四郎	三春張子	福島県	亥（大）	山陰十二支	鳥取県
猪土鈴	富山土人形	富山県	亥（中）	山陰十二支	鳥取県
猪土鈴（白）	富山土人形	富山県	赤亥	北条土人形	鳥取県
猪（大）	金沢張子	石川県	亥	北条土人形	鳥取県
ウリノキの猪	新井の猪	新潟県	猪（茶）	因州若桜焼	鳥取県
きびがら猪	きびがら細工	栃木県	猪（金）	因州若桜焼	鳥取県
猪乗り大黒	船渡張子	埼玉県	鳥取のえと亥	<small>しのぶ</small> 信夫工芸	鳥取県
十二支	下総玩具首人形	千葉県	鳥取のえと亥（白）	信夫工芸	鳥取県
猪乗り童	今戸土人形	東京都	はりこ亥	出雲張子	島根県
うり坊	今戸土人形	東京都	仁田四郎	<small>つやぎ</small> 津屋崎土人形	福岡県
てんてれつく猪	今戸土人形	東京都	親子猪	津屋崎土人形	福岡県
玉乗り猪	今戸土人形	東京都	猪土鈴（茶）	別府の土鈴	大分県

干支奴亥（黒）	江戸張子	東京都	猪土鈴（赤）	別府の土鈴	大分県
干支奴亥（赤）	江戸張子	東京都	猪	くじゅう九重の十二支	大分県
ダルマ乗り亥の子	江戸張子	東京都	餅乗り猪（大）	のこみ能古見人形	佐賀県
招き亥（男）	江戸張子	東京都	餅乗り猪（小）	能古見人形	佐賀県
招き亥（女）	江戸張子	東京都	猪土鈴（大）	能古見人形	佐賀県
宝珠の猪	江戸の小玩具	東京都	猪土鈴（小）	能古見人形	佐賀県
猪車	浜松張子	静岡県	猪土鈴（白）	きどわら佐土原土人形	宮崎県
猪	おつかわ乙川土人形	愛知県	猪土鈴（赤）	佐土原土人形	宮崎県
童子乗り猪	おばた小幡土人形	滋賀県	干支亥（大）	木の葉土人形	熊本県

【展示資料ピックアップ】

◆「宝珠の猪」（東京都）…平成 19 年の年賀郵便切手のモデルとなった江戸趣味小玩具。徳川幕府からたびたび出されたぜいたく禁止令に準じて小型化していったと言われる（図 4-1）。



（図 4-1）宝珠の猪

◆「猪の土鈴」（富山県）…江戸末期の嘉永年間（1848～54）に富山藩藩主によって名古屋から招かれた陶工の流れが「とやま土人形」作りを始める。中では前田家所縁の天神（菅原道真）が有名。一家によって伝承されてきたが、後継者が途切れたため、現在では人形づくりの受講を重ねた一般市民が「とやま土人形伝承会」を結成し、後世に伝える活動をしている（図 4-2）。



（図 4-2）猪の土鈴

◆「仁田四郎」（三春張子 福島県）…細かい描写と大胆な構図が楽しめる張子細工である。イノシシを組み伏せる武将仁田四郎の表情が面白い（図 4-3）。



（図 4-3）仁田四郎

◆「ウリノキの猪」（新潟県）…ウリノキとは、北海道から九州、朝鮮、中国に分布する落葉低木で、葉の形が瓜に似ているので、この名前がついたという。樹皮をはいで束ねただけの朴訥なつくりが、温かみを醸し出す。昭和 46 年の年賀郵便切手に登場した（図 4-4）。



（図 4-4）ウリノキの猪

◆「猪車」（浜松張子 静岡県）…干支に両輪を取り付けた張子細工。おもちゃらしさが生きた一品で、単純な色使いと素朴な表情が見る者を和ませる（図 4-5）。



- ◆「赤猪」(鳥取県) …「れんべい人形」の名で親しまれている加藤廉兵衛氏が作る北条土人形。今回は、神話に題材を求め、赤猪と偽られて燃え盛る石を大国主命が抱きとめてしまう、という場面から、朱赤の猪(本当は石なのか?)が誕生した(図4-6)。



(図4-5) 猪車

【イノシシあれこれ】(解説パネルより)

- ◆イノシシとは ウシ目 イノシシ亜目 イノシシ科  
イノシシ属 (種) イノシシ

現在、日本にいるイノシシは、本州・四国・九州にいるニホンイノシシと、奄美大島・沖縄・石垣島にいるリュウキュウイノシシ。ニホンイノシシは元来雪に弱いとされていたが、最近は北上しつつあり、北陸や東北地方でも見受けられるようになった。

草食性とされるが、ヘビやサワガニなど何でも食べ、昼間にエサを探しまわる。



(図4-6) 赤猪

- ◆イノシシ豆知識(『中国新聞』2003年3月23日付「猪変」特集)

- ・猪突猛進だけでなく、跳ぶ、隠れる、ターンや後ずさりなど状況に応じて身軽。
- ・赤色は灰色に見える(赤いロープをイノシシ除けにしても駄目とのこと)。
- ・甘いものが大好き。

- ◆いのりとイノシシ

縄文時代から貴重なタンパク源のごちそうとして捕らえられてきたため、ただ食べるだけでなく、祭礼に捧げ、食後の骨は占いに用いるなど、天恵という認識に裏付けられた行為がうかがい知れる。弥生時代には、骨<sup>こつぼく</sup>と<sup>あおや</sup>いって、シカやイノシシの肩甲骨に熱した棒を押し当てた焦げ目で吉兆を占う習慣があった。鳥取市<sup>あおや</sup>青谷町にある<sup>かみじち</sup>青谷上寺地遺跡からは、全国でも最多のト骨が見つかり、肩だけでなく下あごの骨も同様の状態で出土した(『青谷上寺地遺跡の弥生人と動物たち』鳥取県教育委員会、平成18年3月)。



鳥取市民の憩いの場にも現れる

翻って、今回の展示品、郷土玩具の中にも「亥乗り天神」「亥乗りダルマ」など、「祈り」にかけたデザインがある(図4-7参照)。太古からのイノシシとのつきあいかたが、信仰と結びつきの深い郷土玩具の世界にも息づいているのではないか。

【関連イベント】

- ◆「干支を彩るぬりえ～いのししの年賀状～」◆

期日：平成18年12月21(木)～23日(土) 午前11時～12時

場所：わらべ館企画展示室

展示中の郷土玩具から数点を選び、パソコン上で輪郭を抜き出して絵手紙用のはがきに印刷した。参加者はクレヨン・色鉛筆・水彩色鉛筆を利用して、ぬりえを楽しんだ。近年、大人のぬりえという趣味の世界が広がりつつあるのに合わせて企画したところ、親子での参加が多く、年配者は少なかった。が、中には二日続けて5～6枚ぬりえを楽しむ年配の方もおり、今後、干支の郷土玩具展を同時期に定期開催するにあたって、定着させたいイベントとなった。



当日の様子



(図4-7)  
輪郭を絵手紙用のはがきにプリント。  
作品例

◆「春の花のうたを歌う会」◆

期日：平成19年3月11日（日）午後2時～3時

場所：わらべ館いべんとほーる

例年、郷土玩具展に合わせて干支にちなんだ歌を地元合唱団が歌う「歌の会」だが、今回は、「春の花」をテーマにした童謡や唱歌を歌った。

〈出演〉指揮・指導 鈴木恵一氏

とっとり童謡唱歌の会、コール山びこ、NHK鳥取文化センター童謡唱歌教室の皆さん

〈プログラム〉

梨花の詩、春の小川、すみれの花咲く頃、花 他



当日の様子

## わらべ館の今まで

(主におもちゃ関連の事項を掲載)

年	月日	出来事
1995 (平成 7)	7月 5日	ヘッセン人形博物館との間に姉妹館提携協定を締結
	7月 7日	わらべ館開館
1996 (平成 8)		西町紙芝居劇場 (後の「わらべ館紙芝居劇場」) 始まる
1997 (平成 9)	5月 27日	秋篠宮妃殿下、わらべ館をご視察
1998 (平成 10)	7月 7日	入館者数 50 万人突破
1999 (平成 11)	4月 9日	「おもちゃ講演会」(年 1 回開催) 始まる
2000 (平成 12)	4月 1日	わらべ館「友の会」発足
	9月 14日	ふれあいボランティア活動開始 ヘッセン人形博物館との姉妹館提携 5 周年を記念して「姉妹館交流 5 周年展」を開催
2001 (平成 13)	11月 20日	3 階おもちゃの部屋に「姉妹館交流コーナー」を新設
2002 (平成 14)	2月 21日	3 階おもちゃの部屋の新着資料コーナーを「ギャラリー童夢」と名称を変更し、企画展を開催
	9月 5日	入館者 1 0 0 万人達成
2003 (平成 15)	10月 23日	ヘッセン人形博との人形交流始まる カスパール人形⇄干支の郷土玩具
		移動わらべ館おもちゃ事業始まる ・おもちゃ展示・おもちゃ教室・遊びの教室
2004 (平成 16)	6月 13日	ヘッセン人形博との人形交流② ケテクルーゼ人形⇄因伯牛の木彫り
	6月 19日	2 階おもちゃの部屋の体験スペースを拡張
2005 (平成 17)	7月 7日	開館 1 0 周年記念式典
		ヘッセン人形博との人形交流③ トラハテンブッペン⇄押し絵羽子板
2006 (平成 18)	8月 23日	入館者 1 5 0 万人達成
		ヘッセン人形博との人形交流④ 「星の銀貨」人形⇄五月人形「金太郎」

## ギャラリー童夢展示履歴

年度	期間	タイトル
平成 1 4 年度	2月 2 1 日～5月 2 1 日	「鳥取の郷土玩具展－節句のおもちゃたち－」
	5月 1 6 日～8月 2 0 日	「板裕生の世界～裕生が愛した鳥取のおもちゃたち～」
	8月 2 1 日～1 0 月 8 日	「鳥取の郷土玩具作家三人展」
	1 0 月 9 日～1 2 月 1 7 日	「東北のこけしたち」
	1 2 月 1 9 日～翌 3 月 1 8 日	「ひつじの郷土玩具展」
平成 1 5 年度	3月 2 0 日～6月 1 7 日	「雛と天神」
	6月 1 9 日～9月 1 6 日	「愛され続けた市松人形」
	9月 1 8 日～1 2 月 1 6 日	「雅な遊び」
	1 2 月 1 8 日～翌 3 月 1 6 日	「申」
平成 1 6 年度	3月 1 8 日～6月 1 5 日	「押し絵～絵と工芸の融合～」
	6月 1 9 日～9月 1 4 日	「立版古～錦絵に込められた小世界～」
	9月 1 6 日～1 2 月 1 4 日	「からくりの機素～物の動く仕組みを理解しよう～」
	1 2 月 1 6 日～翌 3 月 1 5 日	「酉」
平成 1 7 年度	3月 1 9 日～6月 1 4 日	「ディベア～1 0 0 歳を超えた友だち～」
	6月 1 6 日～9月 9 日	「山本千恵子 和紙人形の世界」
	9月 1 0 日～1 2 月 2 0 日	「こま コマ 独楽」
	1 2 月 2 2 日～翌 3 月 1 4 日	「戌年来る」

『ギャラリー童夢企画展報告書 万遊鏡』第2号

発行 平成19年3月30日

編集 財団法人 鳥取童謡・おもちゃ館（わらべ館）

〒680-0022 鳥取市西町3丁目202

Tel 0857-22-7070 Fax 0857-22-3030

印刷 総合印刷出版株式会社

Tel 0857-23-0031